

ジャズピアニストの小曾根真さん 聖マリア病院のホスピスを音楽慰問 ～恒例の演奏会、ボランティアで3年間続く～

ホスピスを訪れた小曾根さん一行と
サンタさんお扮した職員



ジャズピアニストの小曾根真（おぞね・まこと）さんが12月2日、恒例の音楽慰問のため、聖マリア病院のホスピス（緩和ケア病棟）を訪問されました。がんなどで療養されている患者さんらの励みになればと、同病棟のスタインウェイピアノで慰問演奏を始められてから、今回でちょうど丸3年になります。この日も、ポピュラーからクラシックまで素晴らしい演奏を披露して

もらい、患者さんご家族の中には感激で涙を浮かべる方も目立ちました。ケアに従事する看護師ら病院職員一同にとっても、大きな心の支えになっています。



グランドピアノを弾く小曾根さん

東京在住の小曾根さんが、このボランティアでの演奏会を始められたのは2006年12月でした。当時、妻で女優の神野三鈴さんのお母様が当病院に入院されており、音楽がお好きだったお母様に生の演奏を聞かせて励ましたい、と希望されたのが演奏会の始まりでした。緩和ケアに力を注いでいる当病院には、患者さんご家族の癒しの一助にと、病棟ロビーにピアノを設置しています。このピアノ

で演奏していただくことになりました。別の病棟で療養中だったお母様は、ベッドのまま移動してもらい、小曾根さんの演奏を聴いていただきました。

著名な音楽家として多忙な小曾根さんですが、最初の演奏会以降も、毎月1回、聖マリア病院に足を運ばれました。演奏会の話が伝わったことで参加希望者もあつという間に増えました。お母様は昨年暮れにお亡くなりになりましたが、小曾根さんはその後も、演奏会のために訪問を続けていらっしゃいます。

12月2日の演奏会は約3ヶ月ぶり。会場のロビーはホスピスの患者さんほか大勢の参加者で埋まりました。小曾根さんと一緒に、神野三鈴さん、演奏仲間でトロンボーン奏者の中川英二郎さんがいつものように同行されました。今回はまず、病院内のカトリック教会・雪の聖母聖堂を会場に、小曾根さんにとって「初体験」というパイプオルガンで、壮麗なバロック音楽ほかを巧みな演奏で披露していただきました。



パイプオルガンでバロックを弾く小曾根さん

次に会場はいつものホスピスのロビーへ。ここではジャズ風にアレンジしたクラシックやクリスマス曲、歌謡曲など幅広い音楽を演奏していただきました。中川さんのトロンボーンとの息の合った合奏、お二人の演奏を背にした神野さんのすばらしい歌声、また当病院職員も一緒になって歌い、楽しませていただきました。何より小曾根さんの心に染み入るような演奏に、感動で目頭を押さえる人たちが大勢いました。演奏が終わったあと、小曾根さんと患者さんらとの心温まる交流がひとしきり繰り広げられました。

小曾根さんは「ここで演奏して、あらためて「音楽は神様からいただいた宝物、だと感じます」と話されていました。次回の演奏会は1月だということです。

演奏会の中で、小曾根さん夫妻の友人で当病院にも何度か慰問に来ていただいたことがある女優の大竹しのぶさんから「私も参加したかった。みんなと一緒に歌いたかった。絶対また行きます」とのメッセージを伝えていただきました。